

普及指導活動情勢報告（令和3年8月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

点検、さらなる改善へ ～JA れいほく GAP 環境点検～



抜き打ちで環境点検！

7月19、20日、JA高知県れいほく園芸部はGAP環境点検を開催し、部会役員、JA、町村職員、普及所職員合わせて23人が参加しました。全生産者89名のほ場を巡回し、高知県GAP第三者確認制度の点検項目に基づき、各ほ場の状況を確認しました。これまでのGAPの取組により生産者の意識は向上しており、労働時間等の記録をまとめる、頭をぶつける等の危険箇所に表示をする、といった様々な工夫がみられました。一方で、緊急連絡先の掲示をしていない等の指摘事項について改善を促し、後日実施状況を確認していきます。

今後も普及所は、JAと連携してよりよい農業の実践に向けて支援していきます。

ドローンによる薬剤散布 ～省力化をめざして～



ドローンでスマート農業

8月3日、本山町農業公社がドローンによる水稻の薬剤散布を本山町で行いました。ドローンによる薬剤散布は公社の今年からの取組で、30ha余の防除の省力化が期待されています。普及所は、散布実施前にドローン防除での農薬使用方法に関する情報提供を行ってきました。

当日は、関係機関（公社2名、本山町役場4名、普及所4名）で作業手順を確認するとともに、今後の防除計画について情報を共有しました。本格稼働2日目ということで、作業にやや時間がかかる場面もありましたが、公社からは課題は早急に改善し、作業の効率化につなげたいとの前向きな意見がありました。

今後も普及所は公社と連携を取りながら水稻栽培における省力化に取り組んでいきます。

新たなスタイル「リモート現地検討会」を実施しました！ ～シシトウ現地検討会～



Web画面で土佐町の状況を確認する生産者（大豊町）

8月4日、JA高知県れいほく園芸部シシトウ部会現地検討会が開催され、生産者17名が参加しました。今回は初めての取組として土佐町と大豊町の2会場をWebでつなぎ、Zoomを活用して行いました。普及所はJAと協力して会の企画運営を行うとともに、大豊町の会場から病害対策について説明しました。

会では土佐町の現地ほ場の生育状況を、大豊町の会場で同時に確認し、離れた会場間での意見交換が熱心に行われました。参加者からは「近くの支所で参加できるのがよい。」等の声も聞かれました。

今後も普及所は、新しい手法を活用しながら、栽培管理技術の向上を目指し、部会活動を支援していきます。

嶺北地域の基幹的品目の経営実態を把握しました
～青果ユズ生産者ききとり調査～



経営内容について多方面に
伺うことができました

8月13日に、普及所は大豊町役場と連携し、青果ユズの経営実態調査を役場で行いました。青果ユズは現在14戸が取り組んでいる嶺北地域の主要な栽培品目の1つで、嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会で作成している農業振興計画にも基幹的品目として位置づけられています。

今年は振興計画の更新年度に当たることから、2名の生産者の協力で作型や面積、収量、作業体系など、現状把握を行いました。

普及所は農業部会のメンバーとして、経営実態調査をもとに実効性のある経営モデルを作成し、嶺北地域の農業振興に活用していきます。

水稻採種ほ場審査スタート ～安定した種子供給を目指して～



審査した採種ほ場（土佐町）

8月16日、普及所は田井採種組合2戸の採種ほ場について、県職員と、JA高知県（れいほく営農経済センター、農畜産部米穀課）の協力のもと、7名では場審査を実施しました。審査では、異品種・変種の混入、病虫害の発生程度、倒伏度合いを確認し、必要に応じて稲株の抜き取り等の指導を行いました。

生産者からは、「長雨によるいもち病や倒伏の心配があったが、順調に生育してくれた。」との声が聞かれました。審査は生育状況に応じて9月中旬まで順次行う予定です。今後も普及所は、巡回指導等を通じて優良種子の生産に向けて支援していきます。